



ハーパーズウィークリー 1860年6月2日号  
 ニューヨーク・イラストレイテッド・ニュース 1860年6月23日号  
 神奈川大学図書館蔵

### 目次

- 私の好きな作家・作品…………… 2頁
- おどろきの地下書庫体験！…………… 4頁
- 【連載】図書館のススメ(その7)  
 横浜の専門図書館①放送ライブラリー  
 …………… 5頁
- 【視聴覚資料室より】  
 LPジャケットの魅力…………… 6頁
- 図書館の所蔵資料紹介  
 美しき『カンタベリー物語』…………… 7頁  
 —ウィリアム・モリスとエリック・ギルー—
- 図書館からのお知らせ…………… 8頁
- 今号の表紙…………… 8頁
- 編集後記…………… 8頁

### 図書館春のガイダンス

横浜図書館では図書館ツアー・OPAC利用ガイダンスを行います。奮ってご参加ください。

#### ● 図書館ツアー

4月7日(木)～4月15日(金)の8日間

12:25～12:45

16:20～16:40

1日2回実施します。[4月10日(日)除く]

#### ● OPAC利用ガイド

4月18日(月)～4月22日(金)の5日間

12:25～12:45

16:20～16:40

1日2回実施します。

また、6月には映像セミナー「レポートの書き方」「プレゼンテーションの方法」を行います。平塚図書館も各種ガイダンスを予定しております。

詳細は図書館ホームページや掲示をご覧ください。

# 私の好きな作家・作品

## 孜々営々と —城山三郎の世界—

経済学部教授 中野 宏一

昔から「貧の盗みに恋の歌」という言葉があるが、平成の世の中になってから長引く経済不況の故か、高齢者による万引きなどの犯罪が多くなっているという。人の一生は1回限りなのに、その人生の終わりに差しかかって、何とも悲しい限りである。輝かしい青春時代もあったであろうし、働き盛りにはりっぱな仕事を成し遂げた人も多だろうに、残念なことである。

作家、城山三郎の作品の多くはビジネスマンの生きざまを題材にしている。士農工商といわれた時代があったが、今では多くの人々が会社という組織で「商」、すなわちビジネスに従事している。そのビジネスマンたちの人生の美学を感動的に描いたのがこの作家であり、国民的な作家といわれるゆえんである。

城山三郎はビジネスマンだけでなく、『落日燃ゆ』では政治家を、『官僚たちの夏』では官僚を描いたが、いずれの作品においても凜とした人間の生きざまを美しく描いている。

城山三郎は作品を通して、広田弘毅首相や石坂泰三経団連会長のような偉大な人物になれと励ましているのではない。市井の人々の日常生活のなかにも自ずとそれなりの品格というものがあるはずである。そうであるからこそ、この作家は言う。「一つの会社に孜々(しし)営々と十余年つとめているということ、そして、妻をかかえて暮らしていくということ。それはじゅうぶんに人間としての重さを感じさせてよいことだ。」

冒頭の「貧の盗み…」を教訓に、人生、最後まで潔い生き方を貫きたいと思う。作家、城山三郎の作品は人生の指南書でもある。

城山 三郎 (しろやま さぶろう 1927-2007)

本名 杉浦英一。昭和2年8月18日生まれ、平成19年3月22日没。名古屋にインテリア業の長男として生まれる。17歳で海軍特別幹部練習生に志願入隊。戦後は英文学の個人教授を受け、21年東京商科大学(現・一橋大学)予科に進学。卒業後愛知学芸大学(現・愛知教育大学)助手、専任講師となり、傍ら、小説を書き始める。

小説の原点には、戦争の大義と、軍隊内部での蛮行という現実、さらに敗戦によりそれまで信じていた忠君愛国の思想が一転して間違いとなった体験があり、個人と組織・社会との関係を生涯のテーマとした。正義感が強く筋を大事とし、昭和58年には第89回直木賞選考過程を不服として選考委員を辞任。個人情報保護法など国家統制に繋がる流れにも強く反発し、毅然として異議を唱え続け、国からの勲章・褒章は一切を辞退した。(日外 WHOPLUS より)



## フィッツジェラルドの短編

経済学部 准教授 吉岡 忠昭

アメリカの「ジャズ・エイジ」に活躍した作家フィッツジェラルド(F. S. Fitzgerald)の短編小説や随筆に描かれたおよそ100年ほど前のニューヨークの都市生活は、現在の我々の生活と似たほど変わらない。

『メイ・デー』(集英社文庫、沼澤洽治訳『バビロン再訪』所収)は大学を出た青年ゴードンの1919年5月の数日を描いている。そこから一部を引用すれば、「四十二丁目のほうに目をやると、終夜営業のレストランの明かりが溶け合い、…(中略)…六番街では高架鉄道の電車が炎の軌跡となり」(70ページ)、「ブロードウェイを一台のオープントップのタクシーが軽やかに南に走った」(92ページ)などである。また、ウォール街で働く青年アンソンを描いた『富豪青年』(前掲書所収)では「20世紀の初め、すでに度胸のいい若い女性たちが五番街を電気自動車ですいすい走り回っている時代で」(108ページ)、「レジャンダー夫人は五度、電話でハンブステッドを呼び出そうとし」(118ページ)ている。

当時のニューヨークは好況で、随筆『マイ・ロスト・シティー』(中公文庫、村上春樹訳)では「床屋は株に五十万ドルばかり投資して引退し…(中略)…給仕頭たちは考えてみれば私などより遙かに金持」(211ページ)であったが、1929年のある一日を境に好景気は終了した。「床屋はまた店に戻った。給仕頭たちはまたテーブルに足を運びあいさつをするようになった」(213ページ)という。ここに描かれた人々の様子はいまの我々にどこか似ていないだろうか。

F. スコット フィッツジェラルド (Francis Scott Key Fitzgerald, 1896-1940)

大学在学中、第一次大戦に従軍。1920年ゼルダ・セイヤーと結婚。同年小説「This Side of Paradise (楽園のこちら側)」でデビュー。青春の夢と挫折、激しい恋愛を描き、ロスト・ジェネレーション(失われた世代)の代表的作家になる。'25年米国の青春記念碑とも称される代表作「The Great Gatsby (偉大なるギャツビー)」を発表、その頃から7年間フランスのリヴィエラで妻ゼルダと激しい浪費と悲劇の生活を送る。'30年妻が発狂した後、次第に文学活動は精彩を失ない、'37年生活のためハリウッドのシナリオライターとなる。他の著書に「美しくも呪われし者」('22年)、「夜はやさし」('34年)、「最後の大君」('41年)など。(日外 WHOPLUS より)



## 立松和平の三部作

法学部長 法学部教授 三浦 大介

作家、立松和平の代表作は、『遠雷』、『春雷』、『性的黙示録』の三部作であろう。

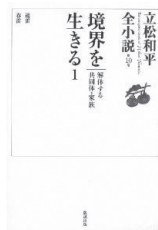
この三部作の舞台となるのは、北関東の近郊農家。周囲はすでに、巨大な物流を担う大規模道路や郊外型の大型店舗、ファミリー・レストラン、そして無機質な住宅団地群に囲まれている。このような光景は、今では日本の至るところに見られる、ごく普通のありふれた「現」風景といえよう。

都市化の波に翻弄された農村と百姓たち。農村は都市に圧迫され、農民たちは用地買収によってこれまで手にしたことのない巨額の現金を得るかわりに、自分たちの拠り所である土地を失う。

村を棄て、町でサラリーマンとして生活の糧を得る者がいる中、農家の跡取りである主人公の和田満夫は、残された僅かな土地にしがみつきのながら、トマトのハウス栽培に百姓としての人生を賭ける。だが、満夫の幼友達の広次が殺人事件を犯し、また満夫の父は、大部分の農地を手放したことの反対給付として得た大金を、湯水のごとく使い果たした後、満夫のビニールハウスの中で農薬を飲み自ら命を絶つ。狂い始めた歯車は、やがて満夫自身の人生をも狂わす。父の死後、満夫は農業を捨てサラリーマンとなるが、会社の金を横領したうえ、社長を殺害してしまう。

この物語は、村と土地を無くした百姓の哀しみを表しただけでなく、わたしたちが営々として築きあげた共同体を、ほんの数十年のうちに、いとも簡単にご破算にしてしまったことを、主人公を取りまく人びとの抗し難い運命を通して訴えているのであろう。わたしたちは、実に取り返しのつかないことをしてしまったのである。

ちなみに『遠雷』は、根岸吉太郎監督、永島敏行主演で映画に、『性的黙示録』は真田広之主演でドラマ化されている。



立松和平 (たてまつ へい 1947-2010)

本名 横松和夫。大学卒業後、土工、運転手、宇都宮市役所勤務を経て、昭和53年より執筆活動に専念する。55年「遠雷」で第2回野間文芸新人賞を受賞。連合赤軍リンチ殺人事件を題材にした「光の雨」は、死刑囚の手記を無断引用したと批判され、平成10年一から書き直した。13年同作品が高橋伴明監督により映画化される。14年初の歌舞伎戯曲「道元の月」を発表。

ボクシングやカーラーにも精力的にとり組み、テレビ朝日の「ニュースステーション」では「心と感動の旅」のリポーターとしても活躍するなど多才ぶりを発揮。平成2年、3年パリ・ダカールラリーにナビゲーターとして参加。5年アジア農村民元気大学（略称＝アカホレ）を開校、総長。21年末より「立松和平全小説」（全30巻）の刊行が開始されたが、間もなく体調を崩し、62歳で亡くなった。（日外 WHOPLUSより）

### 神奈川大学図書館所蔵作品

#### ◆城山 三郎の作品

『落日燃ゆ』

請求記号：B913.6-135 横浜 書庫上層

請求記号：913.6-Sh 89 平塚 第2 閲覧A

『官僚たちの夏』

請求記号：B913.6-136 横浜 書庫上層

『城山三郎伝記文学選』

請求記号：B913.6-1～6-2133 横浜 書庫上層

#### ◆フィッツジェラルドの作品

『フィッツジェラルド作品集 1-3』

（「メイ・デー」「富豪青年（裕福な青年）」収録）

請求記号：B933-1～3-164 横浜 書庫上層

請求記号：933-F 29-1～3 平塚 第2 閲覧A

『マイ・ロスト・シティー：フィッツジェラルド作品集』

請求記号：933-F 29 平塚 第2 閲覧A

『フィッツジェラルド短編集』

請求記号：B 081-1167-41 横浜 3 F 開架

#### ◆立松和平の作品

『遠雷』

請求記号：B913.6-319 横浜 書庫上層

請求記号：913.6-Ta 94 平塚 第2 閲覧A

『春雷』

請求記号：B913.6-392 横浜 書庫上層

請求記号：913.6-Ta 94 平塚 第2 閲覧A

『立松和平 全小説 第10巻、第11巻』

（「遠雷」「春雷」「性的黙示録」収録）

請求記号：B918-10～11-456

横浜 第一グループ閲覧室

他にも、上記作家の所蔵作品があります。

OPACで検索してみてください。

# おどろきの地下書庫体験！

本学図書館では、4月になると新入生の皆さんを対象に、図書館ツアーを行っています。どこにどのような資料があるか、本を借りるときはどのカウンターに行けばよいかなど、図書館員の説明を聞きながら館内を一周してもらいますが、皆さんが驚くのは地下書庫に入った時です。図書館の地下がこんなに広く、たくさんの本が置いてあるなんて！とびっくりするようです。

今回は、横浜図書館の地下書庫のご紹介をいたします。



## 2層構造のB2上、B2下書庫 + 23号館書庫

地下書庫はB2上、B2下の2層と23号館下に分かれています。大きく分けて和書はB2上、洋書はB2下の階にあります。その他新聞、雑誌のバックナンバーなども配架されています。

## たくさんあるので目的をはっきりと

地下書庫にはB2上、B2下、23号館、合わせて約84万冊の本が並んでいます。

専門的な資料は主に地下書庫に配架されていますので、入ってから何を探したらよいか迷わないように、書庫に入るときは、見たい資料を決めてから入ったほうがいいでしょう。

## さまざまな資料

全集、著作集などは主に地下書庫に配架されています。明治期の和装本、大正期の日本文学の復刻版、大型の画集などといった珍しい本や、かつて開架閲覧室に並べられ、たくさんの利用者に読まれた古い時代の本も地下書庫で大切に保管されています。

## 電気は歩くと点く

地下書庫の蛍光灯は、人の動きを感知すると点灯するという省エネシステムになっています。したがって、書架の並んでいる通路は、誰もいないと電気が消えています。書架の間を歩いて行くと明るくなります。初めはちょっと気味が悪いかもしれませんが、そのうち慣れます。

## 迷ったら黄色い線

地下書庫の床には、黄色いラインが走っています。これは非常口への誘導のためにあるラインですが、迷って出口がわからなくなったとき、この黄色いラインに沿って歩けば、書庫の入り口にたどり着けるという便利な役割をしてくれます。



## 地下基地のような23号館書庫

特に皆さんが驚くのは、23号館書庫を案内した時です。ここは高さ4mの電動書架が設置されており、比較的利用の少ない資料や、百年以上も前の新聞・雑誌などの貴重な資料もここに配架されています。ただし、ここへの入庫には図書館員が同行します。専用のキーがなければ書架を動かすこともできません。また、ここに一人で居るのは、ちょっと勇気がいるでしょう。



ざっと地下書庫の紹介をしましたが、詳しくは図書館員にお尋ねください。また、図書館ツアーへのご参加もお待ちしております。

## 図書館のススメ (その7)

# 横浜の専門図書館① 放送ライブラリー

これから3回に分けて、みなさんも利用することができる、横浜にある専門図書館を紹介したいと思います。専門図書館とは、特定の機関に設置されたその専門分野に特化した図書館のことをいいます(図書館だより129号「図書館のススメその4」参照)。

今回ご紹介するのは、日本大通り駅に直結されている横浜情報文化センター内にある「放送ライブラリー」です。この図書館は、日本で唯一の放送番組専門施設で、放送番組を収集・保存し、一般に無料で公開しています。今回初めて訪問させていただきましたが、視聴ホールと展示ホールとに分かれた館内は1日居ても飽きることのない、遊んで体験できる快適な空間でした。目的がなくても、ふらっと立ち寄って楽しめる図書館だと思います。

8階にある「視聴ホール」では、NHKや民放で放送された「テレビ番組」「テレビCM」「ラジオ番組」「ラジオCM」「ニュース映画」を120分間、無料で視聴することができます。視聴方法は簡単。総合受付で、視聴したい旨を伝え、ブース番号を受け取ります(放送ライブラリーのカウンターにいらっしやるのは、神大の卒業生でした!)。指定のブースに着いたらタッチパネルで利用者登録をして、視聴したい番組を検索し、再生するだけ。都度カウンターで映像を出してもらう方式ではありません。高画質の大型モニターで、過去のドラマを(CMなしに)ゆっくり見ることができるという魅力もありますが、企業CMを過去に遡って見られるという点は、就職活動や社会の変化・流行を知るために役立つかもしれません。筆者も放送ライブラリーおススメという、1953年から93年までの「桃屋」のテレビCMや、資生堂のテレビCM28本がまとめられたものを実際に視聴してみました。懐かしく興味深いものでした。視聴ブースは全部で60台。1人用、2人用、3人用に分かれていて、合計100席が用意されています。

9階の「展示ホール」は、体験型スペースです。アナウンサー体験ができる「ニューススタジオ」や、中継操作ができるブース(きみはTVディレクター)のほか、昔の番組やCMを流す「プレイバックシアター」、テレビ番組の視聴率を検索できる「放送データハウス」があります。「アニメヒーロー大集合」というアニメや特撮番組のキャラクターを展示しているブースがあり、例えば「ウルトラマン」と「ゼットン」等ペアを当てるクイズに正解

すると、その番組のハイライトシーンを見ることができます。イベントホールでは「水木しげるの人生絵巻とゲゲゲの森の妖怪たち展(2011年4月3日まで)」が開催されていました。

平日よりも、やはり土日の方が混雑するようです。入口は8階で、入館する際に荷物はロッカーに預けてください。館内での飲食は禁止されています。また、映像の貸出は行っていません。大学から比較的近くにありますが、日本大通りは横浜の観光名所がたくさんあります。横浜の風情を楽しみながら散歩の途中にでも是非立ち寄ってみてください。



### 放送ライブラリー利用案内

所在地	神奈川県横浜市中区日本大通11横浜情報文化センター 8階
交通アクセス	みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口(情文センター口)直結
開館時間	10:00~17:00(視聴受付は閉館30分前まで)
休館日	毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は次の平日)・年末年始
ホームページ	<a href="http://www.bpcj.or.jp/">http://www.bpcj.or.jp/</a> (HPより放送ライブラリーで視聴できる番組検索ができます)

皆さんは、LPレコードというものをご存知だろうか。それは、樹脂でできた円盤に溝を刻んで音響情報を記録した媒体のことで、音を聴くには、針が付いたレコードプレーヤーを使用した。直径は12インチ(30cm)で、レコードプレーヤーのターンテーブルの上で1分間に33 1/3回転する。収録時間は最大で約30分、表裏で1時間の録音が可能であった。それまでのSPレコード(78回転)に比べ長時間再生(Long Play)できることからLPと呼ばれ、1950年頃から1980年頃まで音楽メディアの中心であった。

LPジャケットは、30cm四方という大きさから、そこに描かれた絵や写真に芸術性があるものが多く、それがLP盤の大きな魅力であった。12cmのCDに比べ、より広いキャンバスで腕を奮うことができたので、多くのデザイナーやイラストレーターが優れたデザインのジャケットを生み出してきた。いわば、彼らの創作の場であった。例えば、ストーム・ソーガソンとオープリー・パウエルが1968年に結成したアート集団ヒプノシス(Hipgnosis)は、多くのロックアルバムのジャケットを手がけたことで有名である。アーティストや曲を知らないで、ジャケットのデザインだけでレコードを買う“ジャケ買い”という言葉も生まれた。また現在でも、各地で「LPジャケット展」が開催されたりもしている。かつては、レコード盤の埃を拭い、おもむろにターンテーブルにのせ静かに針を下ろすという作業を経て、ゆっくりとジャケットを眺めながら音楽に聴き入ったものである。

本学図書館視聴覚資料室には、4,300枚余りのLPレコードが所蔵されている。今回はその中から、歴史に残るロックの名盤を3点紹介してみよう。皆さんも、見たことがあるジャケットがあるのではないのでしょうか。ここで紹介したもののほか数点を現在視聴覚資料室で展示中ですので、足を運んでみてください。もちろんジャケットだけではなく、音楽も素晴らしい。残念ながら今は、視聴覚資料室でLPレコードを聴くことはできませんが、CDで同じものを所蔵しているので、ぜひ聴いてみてください。



『Atom Heart Mother』(原子心母)1970年/Pink Floyd(ピンク・フロイド)

このヒプノシスによる牛のジャケットは、プリズムをデザインした『The Dark Side Of The Moon』(狂気)と共に、あまりにも有名である。

ピンク・フロイドは、イギリス出身のプロGRESSIV・ロック・バンド。PROGRESSIVとは、1960年代後半のイギリスに現れたロックスタイルの一つで、ロックというジャンルにとらわれることなく他ジャンルの影響を反映した、前衛的・先進的・実験的な音楽のことをいう。1970年に発表された5枚目のアルバム『Atom Heart Mother』は、全英ヒット・チャート1位を記録し、彼らの名を不動のものにした。

【CD請求記号：R7D-3】

『The Freewheelin'』(フリーホーリーイン)1963年/Bob Dylan(ボブ・ディラン)

ジャケットに一緒に写っているのは当時のガールフレンド、スージー・ロトロ。輝くような笑顔である。二人は、この写真が撮られたニューヨークのグリニッチヴィレッジにあるアパートに住んでいた。青春の不安と希望がない交ぜになった一瞬の表情を、見事に切り取っている。

『The Freewheelin'』はボブ・ディラン2枚目のアルバム。「風に吹かれて」をはじめ、「くよくよするなよ」、「はげしい雨が降る」など名曲が多数収録されている。『Highway 61 Revisited』と共に、60年代を代表する名盤。

【CD請求記号：R8C-127】



『Hotel California』(ホテル・カリフォルニア)1976年/Eagles(イーグルス)

「ホテル・カリフォルニア」というのは架空のホテルで、ジャケットの建物はカリフォルニア州ロサンゼルス市にある「ビバリー・ヒルズ・ホテル」。アルバムジャケットに用いられてから、観光名所ともなった。このジャケットも、しばしばロック史のベストアルバムに登場する。

イーグルスは、1971年に結成されたアメリカの4人組のカントリー・ロックバンド。1982年にバンドを解散したが、1994年に第1期最終メンバーによって再結成。日本公演も行われている。当時のロック界への皮肉、都市社会の矛盾を揶揄したような内容の5枚目のアルバム『Hotel California』は、1976年度グラミー賞を受賞、全米アルバムチャート8週連続1位、全英でも2位を獲得した。

【CD請求記号：R6E-91】

## 図書館の所蔵資料紹介

### 美しき『カンタベリー物語』

— ウィリアム・モリスとエリック・ギル —

『カンタベリー物語』は、14世紀のイングランドで中英語（中世英語）によって書かれた中世ヨーロッパ文学を代表する作品である。舞台は中世のイギリス。著者とおぼしき人物がカンタベリー大寺院への巡礼のため宿屋「タバーン・イン」に投宿していると、どやどやと29人も入ってくる。彼らもまたカンタベリーへの巡礼者達だという。夕飯時、宿屋の亭主は集まった巡礼者達に一つの提案をする。明日からの道中を楽しく愉快な旅にするために、昔起こった事件の話をそれぞれ二つずつすることにしましょう。一番面白い話をした方には、カンタベリーからのお帰りにみなさんのおごりで夕飯をご馳走してはいかがでしょうか、と言うのである。皆がこの提案に賛成し、翌朝、宿屋の亭主と共に一行は出発する。話はくじで一番目に当たった騎士から始まり全部で24話語られる。

著者ジェフリー・チョーサー（Geoffrey Chaucer, c1340-1400）は、ロンドンの裕福な商人の家に生まれ、宮廷に仕え外交官としても活躍した詩人である。貴族から農民まであらゆる階層の人間の思想、感情を熟知していた著者が描き出すカンタベリーへの巡礼者達—粉屋、料理人、法律家、貿易商人、農地管理人、托鉢修道僧、その他もろもろ—は、生き生きと描写され、彼らの巧みな語り口は、まるで読者も巡礼者達と一緒に話を聞いているかのように思わせる。ロマンスあり、崇高な理想に満ちた話あり、教訓話あり、かと思えば卑猥でお下劣な話もありのこの物語は、長い時を経てもなお、さまざまな人々を魅了し続ける。

この作品に魅せられ、本のデザインを通して『カンタベリー物語』に関わった芸術家がいる。一人はウィリアム・モリス（William Morris, 1834-1896）。工芸家、詩人、思想家であり、機械化によって粗悪な日用品が大量に生産された時代に、生活と芸術の融

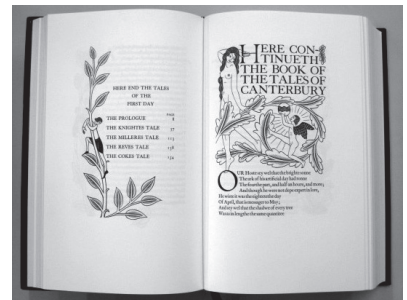
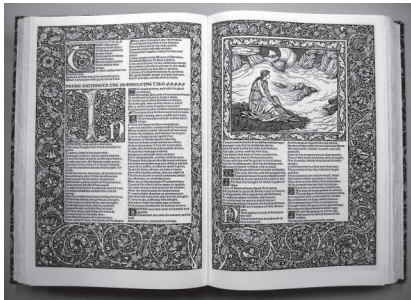
合を目指した19世紀アーツ・アンド・クラフツ運動の運動家である。もう一人はエリック・ギル（Eric Gill, 1882-1940）。彫刻家、版画家、評論家、書体デザイナーなどの多彩な顔を持ち、特に書体デザイナーとして「ギル・サン」という、今なお書籍印刷などにも使われ続けている活字をデザインしたことで知られ、産業社会における職人の仕事について考え続けた芸術家である。

二人の芸術家が制作に携わった『カンタベリー物語』は、それぞれに印象が異なる。モリスの“カンタベリー”には、中世の職人の手仕事を理想としたモリスの美意識が結集されている。プライベートの印刷工房ケルムスコット・プレスで制作された『チョーサー著作集』は、この作品のための活字“チョーサー体”が作られ、手漉きの紙、手動の印刷機を使って制作された。計算された余白の美しい紙面を飾るのは、アーツ・アンド・クラフツ運動の仲間の画家エドワード・バーン＝ジョーンズの木版画である。一方、ギルが挿絵を担当した“カンタベリー”は、ケルムスコット・プレスを手本として設立されたゴールデン・コッカレル・プレスで制作された。シンプルな活字と、エロティシズムを漂わせるエキゾチックなギルの木版画が調和した美しい本である。

モリスもギルも手工芸を重視し、人間から労働の喜びを奪う機械生産には否定的であったが、モリスが中世の職人の手仕事による労働と生産を理想とし、実際にそれを再現したことに対し、ギルは機械的な処理によって手仕事の美が損なわれることのない活字を、機械化の進む印刷業界のためにデザインした。だが、どちらも機械に使われることのない人間の手仕事にこそ、真の労働の喜びと美があるとし、そこに理想の世界を見出したことには変わりはない。二人の芸術家が『カンタベリー物語』の制作に関わったのは、まさにこの手仕事による労働の時代—中世に生きる人間のたくましく生き生きとした、この物語の世界に魅了されたからではないだろうか。

写真左上：モリス『チョーサー著作集』ファクシミリ版 パシリスク・プレス, 1975年  
Originally published: Kelmscott Press, 1896 (請求記号: A931-279 準貴重書庫)

写真右上：ギル『カンタベリー物語』ファクシミリ版 フォリオ・ソサエティー, 2010年  
Originally published: Golden Cockerel Press, 1929-1931 (請求記号: A931-867 書庫下層)



## 図書館からのお知らせ

### 横浜・平塚共通

#### ◎春季長期貸出期限日

2011年4月11日（月）

返却期限日までに必ず図書館に返却してください。

延滞すると延滞日数分（最長2週間）貸出停止になります。

#### ◎図書館を利用する際は学生証が必要です

入館ゲートを通るとき、図書を借りるときに学生証が必要です。

#### ◎ガイダンス

横浜図書館では4月に図書館ツアー・OPAC利用ガイダンスを行います。また、6月には映像セミナーを行います。「レポートの書き方」「プレゼンテーションの方法」についての映像を上映します。奮ってご参加ください。詳細は図書館ホームページや掲示をご覧ください。

#### ◎盗難への注意

貴重品（財布、携帯等）は席を離れる時、必ず身につけてください。

#### ◎マナーを守りましょう

下記の迷惑行為は止めましょう。

- お喋り
- ヘッドフォンの音漏れ
- 携帯電話の使用（通話）
- 指定場所以外でのパソコン、電卓の使用
- 飲食

### 横浜

◎旧第2グループ閲覧室（B1F）が「リフレッシュルーム」として生まれ変わりました。手洗器・自販機が設置され、気軽に利用することができます。利用の際は、他の利用者の迷惑にならぬよう、十分注意してください。

### 編集後記

子供の頃、父がくゆらす煙草の煙が、漂いながら上に登って消えていくのを見上げていた記憶がある。親戚のおじさんの訪問があった日は、家の中には煙草の香りと出前のお寿司の匂いが漂っていた。少し前の世代の者にとって、煙草の香りとは大人の男のイメージである。

今から30年ほど前、横浜図書館が建設されたばかりの頃の写真を見ると、驚くことに「読書室」に灰皿が写っている。飲食については当時から厳しく禁じているが、喫煙は定められたところなら可となっていた。二十歳を過ぎた大学生なら当然煙草を吸う者もいるだろう、ということだったのだろう。喫煙の害があまり知られていなかった時代とはいえ、隔世の感がある。ある意味、大学生を大人として認め、信頼していたことのあらわれのように思える。

現在、煙草は体に悪いということで国を挙げた「撲滅」運動が展開されている。本学でも禁煙活動に真剣に取り組んでいる。最近では映画の中の喫煙シーンを規制する動きも出てきているようだ。就職でも煙草を吸うことがマイナス評価になるという話を聞く。

禁煙運動をされている方々の熱心さには頭が下がる思いだが、この先煙草のように「悪」と決められたものが、どんどん禁止されていくようになったらどうしようと不安になる。まず槍玉に挙げられるのは酒だろう。その次に砂糖、脂肪…と続くかもしれない。人間に快樂をもたらすものは、度を越すと体に悪いものが多い。ゆえに、人は悩みながらも、愛してやまないそれらのものを摂取し続ける。

さて、横浜図書館には4月から「リフレッシュルーム」ができた。ここは30年前、灰皿が用意されていた「読書室」だった。もちろん新しい「リフレッシュルーム」は、酒も煙草も食事も厳禁である。

(N.E.)

### 今号の表紙

アメリカの新聞の表紙になった開港期の日本人

ハーバースウィークリー 1860年6月2日号

ニューヨーク・イラストレイテッド・ニュース 1860年6月23日号